資料５

審　議　事　項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅰ　審議事項						
１．提言等関係						
(報告等)	提言「ハッブルの法則の改名を推奨するＩＡＵ決議への対応」インパクト・レポート	物理学委員会IAU分科会、物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会	C(1-3)	日本学術会議第18回幹事会決定「日本学術会議の意思の表出における取扱要領」に基づき、提言「ハッブルの法則の改名を推奨するＩＡＵ決議への対応」に係るインパクト・レポートの報告を行う必要があるため。	会長	意思の表出における取扱要領3
２．国際関係						
提案1	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議 (1)代表者の派遣の決定 (2)外国人招へい者の決定	会長	B(7-9)	令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣を決定するとともに、外国人招へい者を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規53条5項、57条
３．学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和２年度第１四半期】						
提案2	学術フォーラム「日本の学術の現状と展望―第６期科学技術基本計画に向けて―（仮）」の開催について	会長	B(13-14)	主催：日本学術会議 日時：令和2年5月9日(土)13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 **※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要**	―	内規別表第1
提案3	学術フォーラム「拡がるスポーツ－東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える－（仮）」の開催について	会長	B(15-17)	主催：日本学術会議 日時：令和2年6月18日(木)13:30～16:30 場所：日本学術会議講堂 **※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要**	―	内規別表第1
提案4	公開シンポジウム「市民公開講座　明るい超高齢社会を切り開く～日本学術会議からのメッセージ」	臨床医学委員会委員長	B(19-20)	主催：日本学術会議臨床医学委員会老化分科会 日時：令和2年4月5日(日)14:00～16:30 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	―	内規別表第１

提案5	公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」	農学委員会委員長、食料科学委員委員長	B(21-22)	主催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会 日時：令和2年5月16日(土)13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	－	内規別表第１
提案6	公開シンポジウム「地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み」	地球惑星科学委員会委員長	B(23-25)	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会 日時：令和2年5月23日(土)10:00～17:30 場所：日本学術会議講堂、他１室 **※第三部承認**	－	内規別表第1
提案7	公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」	農学委員会委員長、食料科学委員委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会 日時：令和2年6月13日(土)13:30～17:30 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	－	内規別表第１
提案8	公開シンポジウム「若年者の視覚・聴覚障害と高齢者の視覚・聴覚障害」	臨床医学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会 日時：令和2年6月21日(日)13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 **※第二部承認**	－	内規別表第１

４．その他のシンポジウム等

提案9	公開講演会「Susan Pharr教授講演会～日本における女性研究者の今後（仮）～」	政治学委員会委員長	B(31-32)	主催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会 日時：令和2年1月22日(水)15:15～16:45 場所：東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術センター中教室 **※第一部承認**	－	内規別表第1
提案10	公開シンポジウム「フューチャー・デザインワークショップ2020」	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(33-35)	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会 日時：令和2年1月25日(土)12:00～21:00、令和2年1月26日(日)9:00～15:30 場所：ベルサール六本木グランドコンファレンスセンター会議室A **※第一部承認、第三部承認**	－	内規別表第1
提案11	公開シンポジウム「計算科学基盤強化に向けた国産ソフトウェア実用化の課題と期待―国プロ開発ソフトウェアの実用化・事業化における現実－」	総合工学委員会委員長、企画工学委員会委員長	B(37-39)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和2年2月7日(金)13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂　他1室 **※第三部承認**		内規別表第1

提案12	公開シンポジウム「どうする？ジェンダー平等　人文社会科学系学会の未来（仮）」	第一部部長	B(41-42)	主催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会 日時：令和2年2月18日(火)13:30～16:30 場所：日本学術会議講堂 **※第一部承認**	ー	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム「気候変動に対応した防災・減災のありかた」	土木工学・建築学委員会委員長	B(43-44)	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会 日時：令和2年3月4日(水)13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂 **※第三部承認**		内規別表第1
提案14	日本学術会議近畿地区会議学術講演会「日本学術会議設立70周年記念・近畿地区会議学術講演会－未来の語り口：学術からの貢献－」	科学者委員会委員長	B(45-46)	主催：日本学術会議近畿地区会議 日時：令和2年3月8日(日)13:00～17:00 場所：京都産業大学 むすびわざ館ホール(京都市下京区) **※地区会議が開催主体のため、幹事会の承認のみ**	ー	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「動物の意図共有と協力行動」	心理学・教育学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長	B(47-48)	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会 日時：令和2年3月9日(月)14:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 **※第一部、第二部承認**	ー	内規別表第１
提案16	公開シンポジウム「サービス化する社会とサービス学の教育実装：高等教育を中心として」	経営学委員会委員長、総合工学委員会委員長	B(49-50)	主催：日本学術会議経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会 日時：令和2年3月12日(木)14:30～16:15 場所：大阪成蹊大学相川キャンパス **※第一部、第三部承認**		内規別表第1
提案17	公開シンポジウム「都市農業における資源循環や効率的なエネルギー利用の可能性（仮）」	農学委員会委員長	B(51-53)	主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会 日時：令和2年3月16日(月)13:15～17:00 場所：大阪府立大学学術交流会館 **※第二部承認**	ー	内規別表第１

提案18	日本学術会議in山口「ＡＩ地方への展開ー大学におけるデータサイエンス教育と地域連携（仮）」の開催について	地方学術会議委員会委員長	B(55-56)	主催：日本学術会議 日時：令和2年3月21日(土)12:50～ 場所：山口大学第一講義室(吉田キャンパス) **※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要**	ー	内規別表第1
提案19	公開シンポジウム「植物科学分野における若手キャリアパスの現状と将来（仮）」	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長	B(57-58)	主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会 日時：令和2年3月21日(土)15:00～17:30 場所：大阪大学工学研究科C3棟(5F)サントリーメモリアルホール **※第二部承認**	ー	内規別表第１
提案20	公開シンポジウム「染色体遺伝子の新たな姿とゲム□編集ー生命のさらなる理解と医療・育種への展開-」	農学委員会、食料科学委員会委員長	B(59-60)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会 日時：令和2年3月26日(木)15:00～17:00 場所：九州大学伊都キャンパ都椎木講堂 **※第二部承認**	ー	内規別表第１
提案21	公開シンポジウム「２０３０年に向けたこれからの畜産学の方向性と最先端技術の展開」	食料科学委員会委員長	B(61-62)	主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会 日時：令和2年3月28日(土)9:00～12:00 場所：京都大学農学研究科W100講義室 **※第二部承認**	ー	内規別表第１
提案22	公開シンポジウム「食力向上による健康寿命の延伸：補綴歯科の意義」	歯学委員会委員長	B(63-64)	主催：日本学術会議歯学委員会、日本学術会議歯学委員会臨床系歯学分科会 日時：令和2年6月27日(土)15:00～17:00 場所：福岡国際会議場 **※第二部承認**	ー	内規別表第１

５．後援

提案23	国内会議の後援をすること	会長	ー	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

				①2019年度全国公正研究推進会議 主催：一般財団法人公正研究推進協会 期間：令和2年2月7日(金) 場所：東京大学安田講堂(東京都文京区)他 参加予定者数：約350名 申請者：一般財団法人公正研究推進協会理事長　浅島　誠 **※科学者委員会承認** ②第29回国際MICEエキスポ(IME2020) 主催：一般社団法人日本コングレス・コンベンション・ビューロー、日本政府観光局 期間：令和2年2月26日(水) 場所：東京国際フォーラム地下2階ホールE2(東京都千代田区) 参加予定者数：約500名以上 申請者：一般社団法人日本コングレス・コンベンション・ビューロー会長　猪口邦子 **※国際委員会承認** ③第93回日本薬理学会年会公開シンポジウム「技術革新が拓く機能医科学研究の新しいかたち」 主催：第93回日本薬理学会年会 期間：令和2年3月18日(水) 場所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市西区） 参加予定者数：約150名 申請者：第93回日本薬理学会年会会長　五嶋　良郎 **※第二部承認**		

Ⅱ　その他

	件名	資料(頁)
１．	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は1月30日(木)13時30分開催	D(1)
２．	第180回総会(4/15～17)の日程案について	D(3)

提案１

（1）令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣

番号	国際会議等	会　　期	計	開催地及び用務地	派遣候補者 （職名）	備　　考
1	フューチャー・アース評議会（Governing Council）年次会合 2020	３月６日	１日	日本 京都	武内　和彦 第二部会員 （公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授）	第１区分
2	フューチャー・アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 及びフューチャー・アース評議会（Governing Council）年次会合 2020	３月４日 ～ ３月６日	３日	日本 京都	春日　文子 連携会員 （国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー）	第１区分

※令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成 31 年 2 月 28 日日本学術会議第 275 回幹事会決定）に基づく区分

【参考】

令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

（平成３１年２月２８日
日本学術会議第２７５回幹事会決定）

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和元年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、令和元年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

第１区分

・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である諮問委員会（AC: Advisory Committee）、評議会（GC: Governing Council）及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・本年度、AC 及び GC は各一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第２区分

・フューチャー・アースの実施に当たり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。

・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるグローバル研究プロジェクトに関する会議、タスクフォース及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。

・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

第３区分

・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。

・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりが大きなものを優先する。

・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

（２）令和元年度フューチャー・アースに関する国際会議への外国人招へい者の招へいについて

番号	国際会議等	会　　期	計	開催地及び用務地	招へい候補者氏名 役職 （国名）	備　　考
1	フューチャー･アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 等	３月４日 ～ ３月５日	２日	日本 京都	Anny Cazenave director of Earth sciences, International Space Sciences institute（ISSI） （フランス）	諮問委員会委員として参加するため
2	フューチャー･アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 等	３月４日 ～ ３月５日	２日	日本 京都	Joy Shumake-Guillemot Co-chair, Global Heat Health Information Network（GHHIN）, World Health Organization/World Meteorological Organization Climate and Health Office （スイス）	諮問委員会委員として参加するため
3	フューチャー･アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 等	３月４日 ～ ３月５日	２日	日本 京都	Pamela Matson Professor, Earth System Science at Stanford University （アメリカ）	諮問委員会委員として参加するため
4	フューチャー･アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 等	３月４日 ～ ３月５日	２日	日本 京都	Tolu Oni Associate Professor, Public Health at the University of Cape Town （南アフリカ）	諮問委員会委員として参加するため
5	フューチャー･アース諮問委員会（Advisory Committee）年次会合 2020 等	３月４日 ～ ３月５日	２日	日本 京都	Peng Gong Professor/Chair, Earth System Science at Tsinghua University （中国）	諮問委員会委員として参加するため

３．学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和２年度第１四半期】

＜概要＞

１．日本学術会議主催学術フォーラム

(1) 経費負担を要するものは、原則として年間 10 回程度
(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計３件まで
(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに２件まで

○今回提案【令和２年度第１四半期】　　全２件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案２［p. 13-14］	日本の学術の現状と展望―第６期科学技術基本計画に向けて―（仮）	令和２年５月９日（土）	日本学術会議講堂	要	要
2	提案３［p. 15-17］	拡がるスポーツ－東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える－（仮）	令和２年６月 18 日（木）	日本学術会議講堂	要	要

２．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

(1) 各年度 32 回まで、及び四半期ごとにおおむね８回
（ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

○今回提案【令和２年度第１四半期】　　全５件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案４［p. 19-20］	「市民公開講座　明るい超高齢社会を切り開く　～日本学術会議からのメッセージ」	令和２年４月５日（日）	日本学術会議講堂
2	提案５［p. 21-22］	「One health：新興・再興感染症～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」	令和２年５月１６日（土）	日本学術会議講堂
3	提案６［p. 23-25］	「地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み」	令和２年５月２３日（土）	日本学術会議講堂
4	提案７［p. 27-28］	「食の安全と環境ホルモン」	令和２年６月１３日（土）	日本学術会議講堂
5	提案８［p. 29-30］	「若年者の視覚・聴覚障害と高齢者の視覚・聴覚障害」	令和２年６月２１日（日）	日本学術会議講堂

（参考）----------

■今回提案を含めた合計数

１．学術フォーラム（平日１件/土日１件）　全２件　　残り：８件

（内訳）※現在の２件中、２件とも経費又は人的負担要

		第１四半期 （4 月～6 月）	第２四半期 （7 月～9 月）	第３四半期 （10 月～12 月）	第４四半期 （1 月～3 月）
学術フォーラム	（土日）	1			
	（平日）	1			
合計		2			

２．土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全　６件　　残り：　26 件

（内訳）

	関連部等	第１四半期 （4 月～6 月）	第２四半期 （7 月～9 月）	第３四半期 （10 月～12 月）	第４四半期 （1 月～3 月）
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ	第一部				
	第二部	4			
	第三部	1			
	若手ｱｶﾃﾞﾐｰ				
	課題別				
学術フォーラム（土日）		1			
合計		6			

提案２

日本学術会議主催学術フォーラム
「日本の学術の現状と展望―第６期科学技術基本計画に向けて―（仮）」
の開催について

１．主　催：日本学術会議

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年５月９日（土）１３：００～１７：３０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定あり（科学者委員会学術体制分科会）

７．開催趣旨：

日本の学術は、これまで、基礎研究から応用・開発研究に及ぶ幅広い分野で多くの先端的な成果をうみだしてきた。しかし現在、日本の学術を取り巻く環境は極めて厳しい状況に陥っている。とりわけ、日本の大学等の教育研究機関において、研究者各自の内発的関心に基づき、長期的視野から基礎研究に取り組む環境が急速に失われ、学術の裾野を形成する研究者の活動が弱体化している。

科学技術基本法に基づき、政府は５年ごとに「科学技術基本計画」を策定し長期的視野に立った科学技術政策を実行するものとされているが、2021 年度から始まる第６期科学技術基本計画が対象とする５年間は、日本の学術が今後も世界に遅れることなく発展を持続できるかどうかにとって極めて重要な意味を持つ。

このような問題意識から、日本学術会議科学者委員会学術体制分科会では「第６期科学技術基本計画に向けての提言」(2019 年 10 月 31 日。以下「提言」という。）をとりまとめ、日本の学術をめぐる現状と課題、従来の政策の効果等を整理した上で、第６期科学技術基本計画策定に向けた具体的施策を提言した。

本学術フォーラムは、日本の学術を取り巻く近年の現状及び課題を整理するとともに、「提言」をめぐって各界の識者と幅広く意見を交換し、日本の学術の今後の展望を俯瞰的に議論することを目的とする。

８．次　第：

総合司会
岡崎　哲二（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院経済学研究科教授）

13:00～13:05　開会挨拶
三成　美保（日本学術会議副会長・第一部会員、奈良女子大学副学長・教授）

13:05～13:15　趣旨説明
佐藤　岩夫（日本学術会議第一部会員、東京大学社会科学研究所長・教授）

13:15～14:05　第１部　日本の科学の現状と展望（各 20～25 分）

基調報告１　日本の科学の現状と展望――科学者コミュニティの立場から
山極　壽一（日本学術会議会長・第二部会員、京都大学総長）
基調報告２　日本の科学の現状と展望
――総合科学技術・イノベーション会議から
（調整中）

14:05～14:20　第２部　「第６期科学技術基本計画に向けた提言」の概要
藤井　孝蔵（日本学術会議第三部会員、東京理科大学工学部教授）

14:20～14:30　（休憩）

14:30～15:40　第３部　「第６期科学技術基本計画に向けた提言」をめぐって（各 10 分）
※委員以外から人選

報告１　大学関係者から
（調整中）国大協関係者または大学学長
報告２　経済界から
（調整中）科学と社会委員会政府・産業界連携分科会メンバーほか
報告３　科学行政から
（調整中）内閣府科技担当または文科省高等教育局
報告４　科学ジャーナリズムの立場から
須田　桃子（毎日新聞「幻の科学技術立国」取材班キャップ）
報告５　人文・社会科学分野から
（調整中）会員・連携会員を中心に人選
報告６　ダイバーシティの観点から
（調整中）会員・連携会員を中心に人選

15:40～15:50　（休憩）

15:50～17:25　第４部　パネルディスカッション
「日本の学術の未来を拓くために今なにが必要か」
パネリスト：基調報告者２名＋第３部ゲスト報告者から３～４名、最大６名
モデレーター：佐藤　岩夫（暫定）

※　基調報告・「提言」の内容のほか、イノベーションと科学・技術振興の関係、科学技術基本法改正なども含めて幅広く議論する。最後に会場に開いた質疑時間をとる。
※　パネリストとの議論については、WG 責任者にも適宜フロアからの発言をお願いする。

17:25～17:30　閉会挨拶
武田　洋幸（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・教授）

17:30　閉会
（下線の講演者は、学術会議関係者）

提案３

日本学術会議主催学術フォーラム
「拡がるスポーツ－東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える－（仮）」
の開催について

１．主　催：日本学術会議

２．共　催：調整中

３．後　援：調整中

４．日　時：令和２年６月１８日（木）１３：３０～１６：３０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：調整中

７．開催趣旨：
　２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控え、学術の観点からスポーツの在り方を考える機会が訪れている。スポーツ庁は、東京オリンピック・パラリンピック後を視野に入れて「第２期スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ振興策を推進している。この施策の基本は、国民に科学的エビデンスや知見に基づく「スポーツの価値」を普及・啓発することにある。ルール化された身体運動という意味でのスポーツは、現代社会を構成する重要な要素であるが、その在り方が時代とともに変化することに着目する必要がある。それゆえに、スポーツは、スポーツ独自の問題にとどまらず、科学や技術、思想、社会、人びとの生き方、共感の在り方と深くつながり、学術の観点からの再検討が必要である。このような状況の中、スポーツ庁長官より、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関して、学術会議に審議依頼があった。本フォーラムでは、スポーツ庁からの依頼により組織された、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会から、審議依頼への回答を手交する。その後、障がい者のスポーツ参画や、プロスポーツ選手のセカンドキャリアを含む、スポーツによって引き起こされる障害について話題提供を行う。また、「拡がるスポーツ－東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える－」をテーマに、パネルディスカッションを行う。

８．次　第：

総合司会：
田原淳子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会幹事・連携会員、国士舘大学体育学部教授）
髙瀬堅吉（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会幹事・連携会員、自治医科大学大学院医学研究科教授）

【開会の挨拶・スポーツ庁からの審議依頼の紹介】
渡辺美代子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り

方に関する委員会委員長・副会長・第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

【回答手交式】
山極壽一（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・会長・第二部会員、京都大学総長）

鈴木大地（スポーツ庁長官）

【基調講演１】「当事者視点でみたスポーツのリスクと価値（仮）」
熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

【基調講演２】「パラリンピックブレイン（仮）」
中澤公孝（東京大学大学院総合文化研究科教授）

【基調講演３】「e-Sports とインターネット・ゲーム障害（IGD）（仮）」
曽良一郎（神戸大学大学院医学研究科教授）

【基調講演４】「プロスポーツ選手のセカンドキャリア（仮）」
田中ウルヴェ京

【基調講演５】「未定（仮）」
戸邉直人

【パネルディスカッション】「－東京オリンピック・パラリンピック後のスポーツを考える－（仮）」
司会：
山口香（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会副委員長・特任連携会員、筑波大学体育系教授）

パネリスト：
遠藤 謙（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・特任連携会員、ソニーコンピュータサイエンス研究所リサーチャー、株式会社 Xiborg 代表取締役）

神尾陽子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・第二部会員、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門客員教授、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部客員研究員）

川上泰雄（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・連携会員、早稲田大学スポーツ科学学術院教授）

喜連川優（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・連携会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京

大学生産技術研究所教授）

田嶋幸三（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・特任連携会員、日本サッカー協会会長）

藤江陽子（スポーツ庁審議官）

【閉会の挨拶】
山極壽一（日本学術会議　科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・会長・第二部会員、京都大学総長）

（下線の講演者は、学術会議関係者）

提案４

公開シンポジウム「市民公開講座　明るい超高齢社会を切り開く
～日本学術会議からのメッセージ～」の開催について

１．主　催：日本学術会議臨床医学委員会老化分科会

２．共　催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

３．後　援：日本老年医学会

４．日　時：令和２年４月５日（日）１４：００～１６：３０

５．場　所：　日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：

「明るい超高齢社会を切り開く～日本学術会議からのメッセージ～」と題して、日本学術会議臨床委員会老化分科会において議論を行った内容を広く一般市民に普及啓発するため、市民公開講座を行う。現在、高齢化率が 28%を超え、要支援・要介護高齢者も 630 万人を超えている。今後、高齢化はますます進行し、要介護高齢者、認知症高齢者が増加する中でいかに健康寿命の延伸を図るかが重要であり、それに対してフレイル対策など、高齢者の予防医療を進めることが重要と考えられる。本市民公開講座の開催により、健康長寿の延伸に向けた市民啓発を行うことが出来ると期待できる。

８．次　第：（予定）

座長　大内　尉義（日本学術会議連携会員・老化分科会委員長、虎の門病院院長）
鳥羽　研二（国立長寿医療研究センター理事長）

(1)　主催者挨拶　14:00～14:10
大内　尉義（日本学術会議連携会員・老化分科会委員長、虎の門病院院長）
鳥羽　研二（国立長寿医療研究センター理事長）

(2)　講演
14:10～14:35
荒井　秀典（日本学術会議特任連携会員、国立長寿医療研究センター病院長）
「高齢者の定義を考える」

14:35～15:00
秋下　雅弘(日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座老年病学分野教授)
「薬を正しく理解する」

15:00～15:25
飯島　勝矢(日本学術会議連携会員、東京大学高齢社会総合研究機構教授)
「フレイル対策は健康長寿のかなめ」

15:25～15:50
櫻井　孝（国立長寿医療研究センターセンター長）
「認知症の予防と対策」

(3)　パネルディスカッション　16:00～16:30

登壇者:荒井　秀典（前掲）、秋下　雅弘（前掲）、飯島　勝矢（前掲）、櫻井　孝（前掲）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案５

公開シンポジウム「One health：新興・再興感染症
～動物から人へ、生態系が産み出す感染症～」の開催について

１．主　催:日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会、日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会

２．共　催：人と動物の共通感染症研究会

３．後　援：検討中

４．日　時：令和２年５月１６日（土）１３：３０～１７:３０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定あり（獣医学分科会、食の安全分科会）

７．開催趣旨：
新たな感染症、新興・再興感染症は、人類誕生以来、自然界の営みのなかで極稀な現象として起きてきた。そして今後も起こりうる。この現象の出現メカニズムとともに、現代社会で急速に進むグローバル化が新興・再興感染症の流行拡大に与える影響について概説する。自然現象であることから完全に本感染症の出現を防ぐことは不可能であるものの、極端に恐れることなく、One health、すなわち獣医学・医学・生態学の観点からの危機管理が重要であるとの理解を促す。

８．次　第：
司会：石塚　真由美（日本学術会議第二部会員、食の安全分科会委員長、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

１３時３０分～１３時４０分
開会の挨拶：髙井　伸二（日本学術会議第二部会員、獣医学分科会委員長、北里大学副学長・獣医学部長）

第１部・座長：芳賀　猛（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

１３時４０分～１４時００分
1-1 新興・再興感染症～生態系が産み出す感染症：はじめに

杉山　誠（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部長）

１４時００分～１４時４０分
1-2 インフルエンザ：動物から人へ、脈々と続く感染症
堀本　泰介（東京大学農学生命研究科教授）

１４時４０分～１５時２０分
1-3 エボラ熱：動物から人へ、時々起こる感染症
西條　政幸（国立感染症研究所ウイルス第１部部長）

休憩　１５時２０分～１５時４０分

第２部・座長：杉山　誠（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部長）

１５時４０分～１６時２０分
2-1 狂犬病：動物から人へ、巧妙に続く致死性感染症
伊藤　直人（岐阜大学応用生物科学部准教授）

１６時２０分～１７時００分
2-2 はしか（麻疹）：動物から人へ、そして人の感染症
竹田　誠（国立感染症研究所ウイルス第３部部長）

１７時００分～１７時２０分
2-3 新興・再興感染症～生態系が産み出す感染症：まとめ
芳賀　猛（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

１７時２０分～１７時３０分
閉会の挨拶：苅和　宏明（人と動物の共通感染症研究会会長、北海道大学獣医学研究科教授）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案６

公開シンポジウム
「地質災害の研究とその調査方法の標準化に向けた取り組み」の開催について

１．主　催：日本学術会議地球惑星科学委員会ＩＵＧＳ分科会

２．共　催：IUGS Task Group on Geohazards、日本地球惑星科学連合、American Geophysical Union（予定）

３．後　援：公益社団法人東京地学協会、一般社団法人日本応用地質学会（予定）、公益社団法人日本地すべり学会（予定）、国際津波防災学会（予定）

４．日　時：令和２年５月２３日（土）１０：００～１７：３０

５．場　所：日本学術会議講堂、他１室（分科会開催のため）

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：地震、津波、地すべり、土石流などの地質災害は近年世界各地で頻発している。地質災害科学に従事する者は、地質災害を科学的解明し、その情報を正確かつ迅速に発信することが要求されている。

本研究集会では、主に世界各国で起きた津波、海底地質災害、斜面・河川災害の科学的研究成果を議論する。さらに研究の根底となる調査手法を世界の研究者が共有することを目指し、災害メカニズムのガイドラインや調査手法の世界標準化に関する研究についても議論する。

８．次　第：

司　会

大久保　泰邦（日本学術会議連携会員、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構技術参与）

10：00　「シンポジウム趣旨説明」

北里　洋（日本学術会議連携会員、国立大学法人東京海洋大学教授）

基調講演

10：10　「地震、海底地すべり、津波」

戎崎　俊一（理化学研究所戎崎計算宇宙物理研究室主任研究員）

10：40　「Geohazards on the Azores archipelago 」

Jose Pacheco（Research Institute for Volcanology and Risk Assessment 所長）

第一部：津波調査ガイドライン

11：10　「Post-tsunami field survey -Case study at Sri Lanka」
Nalin Ratnayake（モロツワ大学教授）

11：30　「津波が沿岸地質に及ぼす影響についての緊急調査：国際調査研究の経験と課題」
西村　裕一（北海道大学地震火山研究観測センター准教授）

11：50　「津波数値解析における基盤データとその意義」
菅原　大助（ふじのくに地球環境史ミュージアム教授）

12：10　「津波堆積物調査マニュアルの整備」
後藤　和久（東京大学大学院理学系研究科教授）

12：30－13：30　（　休憩　）

第二部：斜面災害

13：30　「Landslides in Thailand and surrounding areas」
Passakorn Pananont（カセサート大学助教授）

13：50　「北海道における近年の斜面災害」
倉橋　稔幸　（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所上席研究員）

14：10　「西日本豪雨土砂災害」
西村 智博（国際航業株式会社 公共コンサルタント部 部長）

14：30　「北海道胆振東部地震の斜面災害」
山崎　秀策（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所研究員）

14：50－15：10　（　休憩　）

第三部：海底地質災害

15：10　「Marine geohazards in Taiwan」
Andrew Tien-Shun Lin（台湾国立中央大学副教授）

15：30　「海底地すべりによる津波のモデル化と災害軽減」
谷岡　勇市郎（北海道大学理学研究院地震火山研究観測センター教授）

15：50　「海底地すべりと津波：レビュー」
川村　喜一郎（山口大学大学院創成科学研究科准教授）

16：10　「過去の地震による海底地すべり、液状化、注入現象の例：5 月 24 日の野外見学旅行の案内」
小川　勇二郎（筑波大学名誉教授）

16：40　「総合討論」
小川　勇二郎（筑波大学名誉教授）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案７

公開シンポジウム「食の安全と環境ホルモン」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同食の安全分科会

２．共　催：日本環境ホルモン学会、食品衛生学会

３．後　援：未定

４．日　時：令和２年６月１３日（土）１３：３０～１７：３０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：
　環境においてホルモン様作用を示す環境ホルモンは、当初想定されていた環境エストロゲン類だけではなく、様々な化学物質が様々な機序を介していることが分かってきた。「食」を介して曝露が懸念されている環境ホルモンと、その多様な作用について、最新の情報を共有する。

８．次　第：
座長：有薗　幸司（熊本県立大学環境共生学部教授、日本環境ホルモン学会会長）
　　菅野　純（独立行政法人労働者健康安全機構日本バイオアッセイ研究センター所長、日本学術会議連携会員）
司会：石塚　真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

１３時３０分～１３時３５分
開会の挨拶：有薗　幸司（熊本県立大学環境共生学部教授、日本環境ホルモン学会会長）

１３時３５分～１４時０５分
医薬品からの環境ホルモン（仮題）
　　石橋　弘志（愛媛大学大学院農学研究科准教授）

１４時０５分～１４時３５分
新興農薬の毒性と安全性（仮題）
　　池中　良徳（北海道大学大学院獣医学研究院准教授）

１４時３５分～１５時０５分
生活用品による健康被害と対策
河上　強志（国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部室長）

休憩　１５時０５分～１５時１５分

１５時１５分～１５時４５分
環境ホルモン作用と発達神経毒性評価法の確立（仮題）
掛山　正心（早稲田大学人間科学学術院教授）

１５時４５分～１６時１５分
情動認知行動試験の国際化とOECDへの提案（仮題）
種村　健太郎（東北大学農学研究科教授）

１６時１５分～１６時４５分
化学物質の妊娠期曝露による多世代、継世代とエピジェネティクス
野原　恵子（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センターフェロー、日本学術会議連携会員）

休憩　１６時４５分～１７時００分

１７時００分～１７時２５分
総合討論：環境ホルモンのリスクアセスメントのために
（菅野座長および各講演者）

１７時２５分～１７時３０分
閉会の挨拶：澁澤　栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学卓越リーダ養成機構特任教授）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案８

公開シンポジウム「若年者の視覚・聴覚障害と高齢者の視覚・聴覚障害」の
開催について

１．主　催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会

２．共　催：日本耳鼻咽喉科学会、日本眼科学会

３．後　援：未定

４．日　時：令和２年６月２１日（日）１３：００～１７：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：

人口の高齢化により種々の疾患・障害が増加している。生命を脅かす疾患の増加は問題であるが、近年は感覚器障害が大きな問題となっている。つまり生活の質（QOL）を上げる、または維持するために感覚器障害（特に見る力、聞く力の低下）の克服は重要な課題となる。感覚器障害が進行すると、人と人とのコミュニケーション能力が低下し、更には認知症の大きな要因であるとの報告も数多く出されている（Lancet 2017 など)。本シンポジウムでは高齢者の感覚器障害の実態とその克服について議論する予定である。

一方、若年者の感覚器障害の増加も社会的な問題となる。これらは特に若年者が多く使用するスマートフォン、パソコンなどとの関係も無縁ではない。特に長時間のスマートフォンの使用がある種の視覚障害を引き起こすことは一般には認識されている事実ではあるが、その実態はあきらかではない。一方聴覚障害に関しては、近年「隠された難聴」と呼ばれる疾患概念が注目されてきている。

本シンポジウムではこれらの実態につき議論する予定である。

８．次　第：(予定)

13:00　開会挨拶

森山　寛（日本耳鼻咽喉科学会理事長）

寺﨑　浩子（日本学術会議連携会員、日本眼科学会理事長）

13:10　趣旨説明

伊藤　壽一（日本学術会議連携会員、滋賀県立総合病院研究所所長）

13:40　講演・討論　　司会：伊藤　壽一（日本学術会議連携会員、滋賀県立総合病院研究所所長）
石橋　達朗（日本学術会議連携会員、九州大学副学長）

テーマ１：若年者の感覚器障害
高橋　政代（日本学術会議連携会員、理化学研究所生命機能科学研究センター網膜再生医療研究開発プロジェクト客員主管研究員）
飯野　ゆき子（日本学術会議連携会員、自治医科大学名誉教授）

14:40
＜休憩＞
15:00
テーマ２：高齢者の感覚器障害
坪田　一男（日本学術会議連携会員、慶應大学医学部眼科学教室教授）
山岨　達也（日本学術会議連携会員、東京大学医学部耳鼻咽喉科教授）

16:00　総合討論　全登壇者

16:30　閉会挨拶
石橋　達朗（日本学術会議連携会員、九州大学副学長）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

提案９

公開講演会「Susan Pharr 教授講演会
～日本における女性研究者の今後（仮）～」の開催について

１．主　催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会

２．共　催：なし

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年１月２２日（水）１５：１５～１６：４５

５．場　所：東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術センター中教室

６．分科会等の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：比較政治学の分野では、ジェンダーの問題は、福祉国家のみならず、労働市場政策など経済政策にも、大きな影響を与える重要課題であることは言うまでもない。当分科会は、平成 31 年 1 月 30 日に、日本学術会議公開シンポジウム「社会的投資はデモクラシーを救えるか」を早稲田大学で開催し、この重要課題に取り組んできたが、日本社会における現実の変化により影響を与えるような企画が必要であると考えるに至った。日本学術会議全体にとっても、女性の参画は長年にわたる課題であり、問題に取り組む研究者の側の問題も厳然と存在する。そこで、米国で、学術のみならず、大学行政、一般社会全体にも大きな影響を与えてきたスーザン・ファー教授講演会の企画が、令和元年 10 月比較政治分科会で承認された。

　スーザン・ファー教授は、日本の専門家として、ハーバード大学米日プログラムやライシャワー研究所などを中心に、日米の学術交流に貢献し、米国における女性研究者のパイオニアとして政治学の分野で活躍するとともに、ハーバード大学の行政や運営においても重要な役割を果たしてきた。本講演は、ファー教授の、学術、国際交流さらには大学行政における活動についてご教示いただく稀有の機会であり、日本における女性研究者の今後に関し重要な示唆を得ることも期待される。

８．次　第：

15：00　開場

15：15　開会

講演者紹介

加藤　淳子（日本学術会議連携会員、東京大学法学政治学研究科教授）

司会

羽場久美子（日本学術会議連携会員、青山学院大学国際政治経済学部教授）

15：20　講演「日本における女性研究者の今後（仮）」

Susan J. Pharr,　Edwin O. Reischauer Professor of Japanese Politics

Department of Government, Harvard University

16：20　質疑応答

16：50　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１０

公開シンポジウム「フューチャー・デザインワークショップ 2020」の
開催について

１．主　催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会

２．共　催：東京財団政策研究所、総合地球環境学研究所、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所（予定）

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年１月２５日（土）１２：００～２１：００
令和２年１月２６日（日）９：００～１５：３０

５．場　所：ベルサール六本木グランドコンファレンスセンター会議室Ａ
（東京都港区）

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：
全国の実務家や研究者が一堂に会し議論を交わす場を提供し相互リンケージのひろがりを図るとともに、実践や研究の紹介、議論の深化等を通じ、フューチャー・デザインのさらなる普及、取り組みに関する認知度向上も狙いとしたい。

８．次　第：
1 月 25 日（土）
12:00-12:10　ご挨拶
加藤創太（東京財団政策研究所 常務理事）
小林慶一郎（東京財団政策研究所 研究主幹）
12:10-12:40　「フューチャー・デザイン：実践の原則」
西條辰義（日本学術会議第一部会員、東京財団政策研究所上席研究員、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長、総合地球環境学研究所特任教授）
12:40-13:10　「京都府版下水道場『令和 京（京道場）道場』におけるフューチャーデザインの実践」
伊東章裕（京都府 建設交通部 水環境対策課）
13:10-13:40　「仮想将来人になりきって」
岸本悠記（京都府 府民環境部 公営企画課）

13:50-14:20　「フューチャー・デザインを活用した総合計画の策定」
高橋雅明（矢巾町 企画財政課）

14:20-14:50　「吹田市第 3 次環境基本計画の策定に向けてーフューチャー・デザインの実装」
楠本直樹（吹田市 環境政策室）

14:50-15:20　「フューチャー・デザインの可能性と経産省における実践の計画」
(仮)分部亮（経済産業省大臣官房 調査統計グループ）

15:30-16:00　「松本市でのフューチャー・デザインのとりくみについて」
(仮)大日向悠（松本市 政策部）

16:00-16:15　「宇治市における市民団体主体のワークショップについて」(仮)
杉本隆之（宇治市 文化自治振興課）

16:15-16:30　「市民団体によるフューチャー・デザインの取り組み」
上島 均・瀬戸真由美（フューチャー・デザイン宇治）

16:40-17:10　＜FD+医療＞TBA（高山における周産期医療の改革）
(仮)森重健一郎（岐阜大学医学部医学系研究科腫瘍制御学講座産科婦人科学分野教授）

17:10-17:40　＜FD+医療＞「ひきこもりという現象からみる未来社会の課題と可能性」
加藤隆弘（九州大学病院 精神科神経科講師）

17:40-18:10　＜FD+医療＞「臨床医学分野におけるフューチャー・デザインの役割」
(代理発表)藤本千里（東京大学大学院医学系研究科・耳鼻咽喉科頭頸部外科助教）

18:10-18:40　＜FD+医療＞　ディスカッション

1 月 26 日（日）

09:00-09:30　「世代間倫理における責務と互恵性」(仮)
廣光俊昭（財務総合政策研究所客員研究員）

09:30-10:00　「リーディングプログラムにおける“フューチャー・デザイン”ゼミ活動」
フューチャー・デザイン ゼミ(田中徹他 1 名)（慶應義塾大学大学院博士課程教育リーディングプログラム）

10:00-10:30　「TBA」
(仮)倉敷哲生（大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻教授）

10:40-11:10　"Future Design and Social Cohesion: Evidence from Nepal"
Raja Timilsina（高知工科大学フューチャー・デザイン研究所助教）

11:10-11:40　"Intergenerational sustainability dilemma and a potential solution: Future ahead and back mechanism"
Shibly Shahirier (Brac University, Assistant Professor)

11:40-12:10　"How do individuals behave in intergenerational sustainability dilemma? A strategy-method experiment"
Mostafa Shahen（高知工科大学博士後期課程基盤工学コース２年）

12:20-12:50　「仮想将来人たちがアイデア発想能力を最大限に発揮して討議できるようになるための紙芝居作成の試み ～近畿地方のある自治体でのフューチャーデザインの実践例を素材として～」
中川善典（高知工科大学経済マネジメント学群准教授）

12:50-13:20　「リーディングプログラムでの『サイエンス・フィクションワークショップ』」
シンギュラリティ ゼミ(牧野司他)（慶應義塾大学大学院博士課程教育リーディングプログラム）

13:20-13:50　「2019 年の実践を通じた FD 手法開発と時間選好・リスク選好に及ぼす将来世代インパクト ― 松本市における実践と佐久穂町における準備作業」
井上信宏（信州大学経法学部教授）
武者忠彦（信州大学経法学部准教授）
西村直子（日本学術会議連携会員、信州大学経法学部教授）

14:00-14:30　「フューチャー・デザインの政策応用の可能性と効果」
原圭史郎（日本学術会議特任連携会員、東京財団政策研究所上席研究員、大阪大学大学院工学研究科教授）

14:30-15:00　「ニューロサイエンスを活用したフューチャー・デザイン研究」
青木隆太（首都大学東京人文科学研究科特任准教授）

15:00-15:30　「TBA」
小林慶一郎（東京財団政策研究所研究主幹）

９．関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１１

公開シンポジウム
「計算科学基盤強化に向けた国産ソフトウェア実用化の課題と期待
－国プロ開発ソフトウェアの実用化・事業化における現実－」
の開催について

１．主　催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会

２．共　催：一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本応用数理学会、 一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、一般社団法人可視化情報学会、日本計算数理工学会、国際計算力学連合、アジア太平洋計算力学連合、ＣＡＥ懇話会（以上、予定）

３．後　援：公益社団法人日本自動車技術会（予定）

４．日　時：令和２年２月７日（金）１３：００～１８：００（予定）

５．場　所：日本学術会議講堂　他１室
（計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会の開催のため）

６．分科会等の開催：開催予定あり
（計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会）

７．開催趣旨：
計算科学シミュレーションソフトウェアを産業への実装を中心とした視点から俯瞰しながら、計算科学の研究成果を産業競争力強化に寄与しうる技術として発展させて裾野を広げ、それにより日本の計算科学基盤を強化するという好循環を実現することが大切である。その手段の一つとして、「京」の HPCI 戦略プログラムから生まれたソフトウェア群を始めとする、これまでのスパコン対応国産ソフトウェア等の維持、改良、実用化、事業化の仕組み作りが重要である。
前回、第一回シンポジウムでは、実用化人材およびその育成のための評価指標、ソフト開発者モチベーションの向上、等の視点で議論を展開した。今回は、その仕組みにおいて大きな課題である、開発ソフトウェアの実用化、事業化のあり方について、これまでの代表的国プロソフトウェアの事業化プロセスをご紹介いただき、計算科学ソフトウェア普及展開のためのエコシステムのあり方や、その構築のための仕組み作りついて議論を行う。

８．次 第：
司会：大出　真知子（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究拠点主任研究員）

13:00-13:05　開催の挨拶

越塚　誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授）

13:05-13:10　シンポジウム趣旨説明
佐々木　直哉（日本学術会議連携会員、(株) 日立製作所 技師長）

国産ソフトウェアにおける、実用化、事業化の現状と課題
13:10-13:40　粒子法ソフトウェアの事業化、普及展開
越塚　誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授）

13:40-14:10　ソフトウェア PHASE の事業化、普及展開
宇佐美　護（(株)アスムス）

14:10-14:40　ソフトウェア OCTA の事業化、普及展開
青柳　岳司（国立研究開発法人　産業技術総合研究所
機能材料コンピュテーショナルデザイン研究センター　総括研究主幹）

14:40-15:10　計算科学ツール活用に関する意識調査アンケートの結果報告
佐々木　直哉（日本学術会議連携会員、(株) 日立製作所 技師長）

基調講演
15:10－15:50　講演タイトル「モノづくりにおける計算科学の役割(仮)」
吉村　忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学研究科教授）

15:50－16:00　（　休憩　）

総合討論
16:00-17:30
（司会）金田　千穂子（日本学術会議連携会員、(株) 富士通研究所シニアエキスパート）

討論の視点：
第一回および今回のシンポジウムで取り上げられた課題を踏まえて、国プロソフトウェアの戦力化、価値向上、実用化、普及展開のためのエコシステムのあり方について議論する。

（コメンテーター）
越塚　誠一（日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授）
吉村　忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学研究科教授）
宇佐美　護（(株)アスムス）
青柳　岳司（国立研究開発法人　産業技術総合研究所　機能材料コンピュテーショナルデザイン研究センター　総括研究主幹）

17:30-17:40　閉会の挨拶

佐々木　直哉（日本学術会議連携会員、株式会社日立製作所技師長）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

提案１２

公開シンポジウム
「どうする？ジェンダー平等　人文社会科学系学会の未来（仮）」の開催について

１．主　催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会

２．共　催：人文社会科学学協会男女共同参画推進連絡会（ＧＥＡＨＳＳ）

３．後　援：未定

４．日　時：令和２年２月１８日（火）１３：３０～１６：３０

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：本分科会の呼びかけで平成 29（2017）年 5 月に人文科学系学協会男女共同参画推進連絡会（略称ギース　GEAHSS）が発足し、この間、共催シンポジウムの開催、アウトリーチ活動はもとより、日本で初となる人文社会科学系女性研究者の実態調査を、これもギースとの共催で実施してきた。このシンポジウムでは、主に人文社会科学系分野での課題を明らかにし、この分野での男女共同参画をよりいっそう進めるための提言に結び付く議論を行う。

８．次　第：（予定）

司会　伊藤　公雄（日本学術会議第一部会員、ギース副委員長、京都産業大学客員教授）

13：30　開会挨拶

永瀬　伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科教授）

13：35　来賓挨拶

内閣府男女共同参画局長　池永　肇恵

文部科学省総合教育政策局長　浅田　和伸

国立女性教育会館長　内海　房江

男女共同参画学協会連絡会委員長　熊谷　日登美

13：50　第一部　基調講演　「『科学』の進展とジェンダー平等の未来」

渡辺　美代子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

14：50　休憩

15：00　第二部　パネルディスカッション　「人文社会科学系からの提言に向けて」

１．　「調査から浮かび上がる課題」本田　由紀（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究所所長教授）

２．　「日本学術会議総合ジェンダー分科会からの提言」永瀬　伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科教授）

３．　「海外の取組み：英国における人文社会科学系学協会の連携体制」和泉　ちえ（日本学術会議第一部連携会員、ギース副委員長、千葉大学大学院人文科学研究院教授）

４．　「ギースから日本学術会議に求めること」青野　篤子（福山大学名誉教授、ギース委員長）

５．　全体討論

16：20　閉会挨拶　青野　篤子（ギース委員長、福山大学名誉教授）

16：30　閉会

９．関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

提案１３

公開シンポジウム「気候変動に対応した防災・減災のありかた」の開催について

１．主　催：日本学術会議土木工学･建築学委員会インフラ高度化分科会

２．後　援：防災学術連携体、公益社団法人土木学会、一般社団法人
日本建築学会(予定)、公益社団法人地盤工学会、

４．日　時：令和２年３月４日（水）１３：３０～１７：００

５．場　所：日本学術会議講堂

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：　気候変動により外力や災害発生のメカニズムの変化が生じつつある。さらに、社会経済の多様化により、被害の形態も変化しつつある。従来の防災・減災政策は、外力の発生や規模に関するさまざまな前提条件の下に検討されてきた。このような議論の前提となる外力の想定自体に見直しが求められるようになってきた。しかしながら、気候変動に関しては、依然としてデータの蓄積が不十分であり、防災・減災の前提条件の変化を確定的に同定できない。一方で、既往の防災・減災政策の下で、ハード施設の整備、ソフト政策による対応、まちづくりが進んでおり、前提条件の変化がこれまでの防災・減災政策やまちづくりのありかたの修正を余儀なくさせたり、効率性を低下させる可能性がある。このような不確実な状況の中で、かつハード施設の整備に限界がある中で、自助・共助も含めてどのようにまちづくりを進めていけばいいのか、国民の理解を深めていく必要がある。本シンポジウムでは、前提条件の不確実性下における防災・減災のマネジメントのありかたについて議論したいと考える。

８．次　第：

司会：　依田　照彦（日本学術会議連携会員　早稲田大学名誉教授）

13：30　開会の挨拶

小林　潔司（日本学術会議第三部会員、京都大学経営研究部特任教授）

13：40　気候と社会の変化に対応できる水災害レジリエンスの強化

小池　俊雄（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)センター長）

14：00　移行期における既存インフラの問題点

小松　利光（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

14：20　破堤しない堤防を目指して

嘉門　雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

14：40－15：00　（　休憩　）

15：00　気候変動下における建築分野の防災、減災
　　田村　和夫（日本学術会議連携会員、建築都市耐震研究所代表）
15：20　気候変動に対応する防災減災の在り方
　　那須　清吾（日本学術会議連携会員、高知工科大学工学研究科教授）
15：40　移行期における防災・減災マネジメントの課題
　　小林　潔司（日本学術会議第三部会員、京都大学経営研究部特任教授）

16：00　総合討論
　　（司会）小林　潔司（日本学術会議第三部会員、京都大学経営研究部特任教授）
16：50　総括・閉会
　　池田　駿介（日本学術会議連携会員　株式会社建設技術研究所研究顧問）

９．関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

※第279回幹事会承認済みの学術講演会について、
台風19号の接近に伴い日程を延期したもの。

提案１４

日本学術会議近畿地区会議学術講演会「日本学術会議設立70周年記念・近畿地区会議学術講演会－未来の語り口：学術からの貢献－」の開催について

１．主　催：日本学術会議近畿地区会議

２．共　催：京都産業大学

３．後　援：公益財団法人日本学術協力財団（依頼予定）

４．日　時：令和２年３月８日（日）１３：００～１７：００

５．場　所：京都産業大学むすびわざ館ホール（京都市下京区）

６．開催趣旨：

本講演会は，日本学術会議設立70周年を記念し，日本学術会議は学術を通して社会にどのような貢献をできるのか，またしているのかを，広く若手を含む研究者や一般市民に周知するとともに，今後，学術会議が何をなすべきかについて議論を深めることを目的とする。

今回は，人口ボーナスを享受した右肩上がりの時代が終わり，人口減少と高齢化の進行の先頭に立つ日本の「未来」について議論したい。もはや海外の「先進」国のモデルを模倣する時代は終わり，自ら考え，試行錯誤を通じて未来を切り開く覚悟が求められている。

学術のさまざまな立場からいくつかの＜未来の語り口＞を提示し，社会で行われるべき討議のための素材を提供したい。また，未来の主人公たる高校生や大学生に広く参加を呼び掛けてみたい。

７．次　第

開会挨拶

伊藤　公雄（日本学術会議近畿地区会議代表幹事・日本学術会議第一部会員・京都産業大学現代社会学部教授）

日本学術会議会長挨拶

山極　壽一（日本学術会議会長・日本学術会議第二部会員・京都大学総長）

趣旨説明

小林　傳司（日本学術会議第一部会員・大阪大学CODESIGNセンター教授）

講演１　「フューチャー・デザイン：未来に持続可能な社会を引き

継ぐために」
原　圭史郎（日本学術会議特任連携会員・大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター教授）

講演２　「ＡＩを活用した社会構想と政策提言」
広井　良典（京都大学こころの未来研究センター教授）

講演３　「食とリスクの視点からみた未来」
新山　陽子（日本学術会議連携会員・立命館大学食マネジメント学部教授）

講演４　「Society 5.0 が描く未来」
東野　輝夫（日本学術会議第三部会員・大阪大学大学院情報科学研究科教授）

講演５　「変容する情報社会と未来の構想：ポスト・ヒューマンの時代とは」
遠藤　薫（日本学術会議第一部会員・学習院大学法学部教授）

全体討論
コーディネータ：小林　傳司（日本学術会議第一部会員・大阪大学 CO デザインセンター教授）
※再掲

閉会挨拶
小山田　耕二（日本学術会議第三部会員・京都大学学術情報メディアセンター教授）

総合司会
髙山　佳奈子（日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授）

８．関係部の承認の有無：なし
※地区会議が開催主体のため、幹事会の承認のみ

（下線の講演者等は、主催地区会議の会員・連携会員）

提案１５

公開シンポジウム「動物の意図共有と協力行動」の開催について

１．主　催：日本学術会議心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会

２．共　催：新学術領域「共創言語進化学」、日本動物行動学会、日本動物心理学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年３月９日（月）１４：００～１７：３０

５．場　所：　日本学術会議講堂

６．分科会の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：　現在、人間のコミュニケーション手段は、電子機器・電子ネットワークの普及により急激に変化している。このような変化に、人間はどのように対応してゆくであろうか。このシンポジウムでは、コミュニケーション行動の原点に立ち、動物のコミュニケーション行動、問題解決行動などから社会的知性の萌芽を探る研究を進める研究者を集め、最新の研究成果を聞く。コミュニケーションと協力行動を進化の軸で見て、私たち自身の未来のコミュニケーションのあり方を考える契機とする。

８．次　第：

14：00～14：05
「開会挨拶」
辻　和希（日本学術会議連携会員、琉球大学農学部教授）

14：05～14：15
「動物たちの意図共有と協力行動：趣旨説明」
岡ノ谷　一夫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

14：15～14：50
「イルカの協力行動」
山本　知里（京都大学霊長類研究所、日本学術振興会特別研究員）

14：50～15：35
「ニホンザルとラットの意図共有的行動」

勝野　吏子（東京大学大学院総合文化研究科、日本学術振興会特別研究員）

15：35～15：50　休憩

15：50～16：25
「ベニガオザルの赤ちゃんが維持する群れの平和」
豊田　有（中部大学創発学術院研究員）

16：25～17：10
「ヒトの母子コミュニケーションと意図共有」
明和　政子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授）

17：10～17：30
「総合討論」
司会：岡ノ谷　一夫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

17：30～17：35
「閉会挨拶」
辻　和希（日本学術会議連携会員、琉球大学農学部教授）

９．関係部の承認の有無：第一部、第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１６

公開シンポジウム「サービス化する社会とサービス学の教育実装：
高等教育を中心として」の開催について

１．主　催：日本学術会議経営学委員会・総合工学委員会合同サービス学分科会

２．共　催：サービス学会(予定)

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年３月１２日（木）１４：３０～１６：１５

５．場　所：大阪成蹊大学相川キャンパス

６．分科会等の開催：開催予定

７．開催趣旨：
　サービス学は、モノの生産、交換、消費を中心に捉えられてきた問題を異なる視点から理解し、既存の理論や実践を包含しながら新しい知識の体系を作り出すことを目的としている。近年の情報通信技術の進展や社会のデジタル化によって、生活世界の中で価値を具現化するサービス化へと社会は移行している。それにより、サービス事業者のみならず、サービスの価値共創の担い手である消費者や市民に対しても、サービス学の知識や思考の教授の重要性が増大している。サービス学分科会では、このような社会の変化とニーズに応えるべく、学問としてのサービス学の体系化と高等教育機関における具体的な教育実装の方法について審議を重ねてきた。
　この度、その成果を日本学術会議の提言としてまとめ、12 月末に提出する。本シンポジウムは、本提言の内容を紹介し、サービス化する社会におけるサービス学のあり方と高等教育機関における教育実装のあり方について広く議論することを目的とする。そこで、主たるステークホルダーであるサービス学の教育・研究者が集う国内最大級の学術組織であるサービス学会の第 8 回国内大会において、サービス学会と共催という形で開催する。

８．次　第：

14:30～14:35　趣旨説明
　　西尾　チヅル（日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授）

14:35～14:45　サービス学の論理基盤
　　村松　潤一（日本学術会議連携会員、岡山理科大学経営学部教授）

14:45～14:55　サービス学の教育方法
山本　昭二（日本学術会議連携会員、関西学院大学大学院経営戦略研究科教授）

14:55～15:10　ビジネス・社会変革とサービス学の必要性(仮)
瀧 俊雄（株式会社マネーフォワード Fintech 研究所長、取締役執行役員）

15:10～15:25　サービス学の教育に対する高等教育現場における課題(仮)
吉瀬　章子（日本学術会議連携会員、筑波大学システム情報系教授）

15:25～15:35　　（　休憩　）

15:35～16:10　サービス学の教育実装に対する総合討論
司会　戸谷　圭子(日本学術会議連携会員、明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科教授)
パネラー：村松　潤一、山本　昭二、瀧　俊雄、吉瀬　章子

16:10～16:15　閉会の挨拶
新井　民夫（日本学術会議連携会員、技術研究組合国際廃炉研究開発機構副理事長）

９．関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１７

公開シンポジウム「都市農業における資源循環や効率的な
エネルギー利用の可能性（仮）」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会

２．共　催：なし

３．後　援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、日本農業工学会、農業施設学会、生態工学会（すべて予定）

４．日　時：令和２年３月１６日（月）１３：１５～１７：００

５．場　所：大阪府立大学学術交流会館

６．分科会の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：

循環型社会が達成された理想的な都市域生態系では、系内に入力される物質量および太陽エネルギー以外に系に入力されるエネルギー量は少なくなり、従って系外に排出される物質・エネルギー量も少なくなる。このような循環型社会を達成するためには、近郊緑地や都市緑地の植物機能を最大限に利用する必要がある。さらに、後述するような食料・資源・エネルギー源となる作物の都市農園での生産を含む総合的な物質循環システムを構築する必要がある。

ここでは、地域を物質が循環する生態系と捉えて、その物質循環を健全に運転するために、都市農業を中心として植物機能を最大限に発揮させ有効に利用する方法について考え、都市圏における物質循環、エネルギー有効利用のための方策を議論する。

８．次　第：

13:15　開会挨拶

仁科　弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学副学長・教授）

13:20　趣旨説明

北宅　善昭（日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

講演：

司会：荊木　康臣（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授）

13:25　「持続可能な社会構築のための都市農業の実現に向けた研究拠点形成」（仮題）
荊木　康臣（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科教授）

13:40　都市農業における資源循環や効率的なエネルギー利用（仮題）
遠藤　良輔（日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科講師）

14:00　都市農業とソーラーシェアリング（仮題）
谷　晃（日本学術会議連携会員、静岡県立大学食品栄養科学部教授）

＜休憩＞14:25-14:35

司会：位田晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）

14:35　ランドスケープの観点から見た都市農業（仮題）
増田　昇（日本学術会議連携会員、大阪府立大学名誉教授・植物工場研究センター長）

15:00　ライフサイクルアセスメントの観点から見た都市農業（仮題）
講演者調整中（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）

15:30　大阪府における都市農業の取組み（仮題）
講演者調整中（大阪府立環境農林水産総合研究所）

16:05　総合討論
進行：北宅　善昭（日本学術会議連携会員、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授）
コメンテータ：位田　晴久（日本学術会議連携会員、宮崎大学名誉教授）
古在　豊樹（日本学術会議連携会員、千葉大学名誉教授）
調整中（未定）

16:55　閉会挨拶
真木　太一（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授、北海道大学農学研究院研究員）

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案１８

日本学術会議 in 山口「ＡＩ地方への展開－
大学におけるデータサイエンス教育と地域連携（仮)」の開催について

１．主　催：日本学術会議

２．共　催：山口大学

３．後　援：山口県、山口市、宇部市（依頼予定）

４．日　時：令和２年３月２１日（土）１２：５０～

５．場　所：山口大学第一講義室（吉田キャンパス）

６．開催趣旨：近年の人工知能（AI）関連技術の進展はめざましく、社会課題の解決への積極的な活用が期待される。政府は、Society 5.0 の実現を通じた世界規模の課題の解決への貢献や、我が国自身の社会課題の克服のための、今後の AI の利活用の環境整備・方策を、AI 戦略として提示している。第一部では、地方において、この AI 戦略はどのように展開し、実効化していけばよいか、その方向性や課題について、教育や科学の役割を中心に議論する。
また、第二部では、地方との対話の場を設け、日本学術会議幹事会構成員と中国四国地区の会員・連携会員、山口大学等のメンバーで、地方の課題等について意見交換を行う。

７．プログラム案
第一部　講演「AI 戦略の地方への展開－大学におけるデータサイエンス教育と地域連携（仮)」

12:50-　挨拶
山極 壽一　日本学術会議会長、京都大学総長
岡 正朗　　山口大学長

13:10- 趣旨説明
荊木 康臣　日本学術会議連携会員・山口大学大学院創成科学研究科教授

前半司会　荊木 康臣　日本学術会議連携会員・山口大学大学院創成科学研究科教授

13:15-13:45　政府のAI戦略について（仮）
佐藤 文一　内閣官房内閣審議官（内閣府大臣官房審議官併任）

13:45-14:15　大学におけるデータサイエンス教育と地域との連携
松野 浩嗣　山口大学大学院創成科学研究科教授・学長特命補佐

14:15-14:35　山口県における取り組みについて（仮）　講演者調整中（県に依頼中）

（休憩）

後半司会　松野 浩嗣　山口大学大学院創成科学研究科教授・学長特命補佐

14:50-15:15　AI医学研究教育　―AISMEC：AIシステム医学医療研究教育センター
浅井 義之　山口大学大学院医学系研究科教授

15:15-15:40　AI（データサイエンス技術）の防災への活用　―応用衛星リモートセンシング研究センターの取り組み
長井 正彦　山口大学大学院創成科学研究科准教授

15:40-16:05　AIと農業（仮）
仁科 弘重　　日本学術会議第二部会員・愛媛大学理事、
高山 弘太郎　日本学術会議連携会員・愛媛大学教授・豊橋技術科学大学教授

16:10-16:55　総合討論
進行役　堀 憲次　山口大学理事・副学長（学術研究担当）・大学研究推進機構長

16:55-17:00　閉会挨拶
神谷 研二　日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事、広島大学副学長

第二部　地方との対話の場
17:15-19:00　（山口大学吉田キャンパス内会議室）
日本学術会議幹事会構成員と中国四国地区の会員・連携会員、山口大学等のメンバーで、地方の課題等について意見交換を行う。
（下線の講演者等は、日本学術会議の会員・連携会員）

提案１９

公開シンポジウム「植物科学分野における若手キャリアパスの
現状と将来（仮）」の開催について

１.主　催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同
植物科学分科会

２.共　催：（一社）日本植物生理学会、大阪大学工学部、植物生理若手の会、
（公社）日本植物学会、（公財）大隅基礎科学創成財団（すべて予定）

３.後　援：なし

４.日　時：令和２年３月２１日（土）１５：００～１７：３０

５.場　所：大阪大学工学研究科Ｃ３棟５Ｆサントリーメモリアルホール

６.分科会の開催：開催予定あり

７.開催趣旨：
日本の科学分野において、博士後期課程大学院生が大きく減少しているとのデータは多数報告されている。一方で、政府関係機関などから発表されているこのようなデータの多くは、学問分野を広く切り取ったものが多く、個別の分野の事情は必ずしもはっきりしない。
基礎植物科学分野においても、同じような感想は多くの大学教員から聞かれるが、実際はどのような現況なのか、明確なデータは存在しない。植物科学分科会では、植物科学分野の学生・院生動向はどうなっているのか、他の分野に比べて植物科学分野の現状がどうなっているのかを明らかにすべくアンケートを行い、そのデータに基づき現状について議論をするための場として本シンポジウムを企画した。
シンポジウムに先立ち、植物科学の研究室を主宰している教員、その研究室に所属あるいは卒業した学生・院生、社会の受入れ側である企業からそれぞれアンケートを取る予定で準備を進めており、アンケートから明らかになった現状に加えて、近年学位を取得した学生のキャリアの紹介、企業から見た博士取得者ニーズ等、博士後期課程進学の実態を共有することを予定している。

８.次第：（予定）
15:00～15:05　開会挨拶
西村いくこ（日本学術会議第二部会員、甲南大学理工学部教授、植物科学分科会委員長）
15:05～15:15　日本学術会議植物科学分科会の活動

西村いくこ（日本学術会議第二部会員、甲南大学理工学部教授、植物科学分科会委員長）

15:15〜15:45　植物科学分野の研究室、大学院生動態アンケート結果

三村徹郎（日本学術会議第二部会員、神戸大学大学院理学研究科教授、植物科学分科会副委員長）

15:45〜16:20　企業からみた博士号取得者

企業１、企業２、企業３（調整中）

16:20〜16:25　休憩

16:25〜17:00　学生・院生・若手研究者は、大学院進学をどのように捉えているか

ポスドク〜企業、学生〜young ポスドク（調整中）

17:00〜17:25　総合討論（パネルディスカッション）

司会：佐藤豊（日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授、植物科学分科会幹事）

パネリスト：（調整中）

17:25〜17:30　閉会挨拶

山崎真巳（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院薬学研究院准教授、植物科学分科会幹事）

９.関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案２０

公開シンポジウム「染色体遺伝子の新たな姿とゲノム編集
−生命のさらなる理解と医療・育種への展開−」の開催について

１．主　催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会

２．共　催：公益社団法人日本農芸化学会

３．後　援：なし

４．日　時：令和２年３月２６日（木）１５：００～１７：００

５．場　所：九州大学伊都キャンパス椎木講堂（福岡県福岡市）

６．分科会等の開催：　開催予定あり

７．開催趣旨：
　ゲノム研究の今を知り、今後の展開性をテーマとして、医療や健康分野にとどまらず、食品分野にも広く関わる様々なゲノム科学に関わる最先端研究について、これらの分野で世界をリードしている３名の研究者にわかりやすく講演をしていただく予定である。私たちの生活に広く、また深く関わるゲノム科学について、農芸化学分野の果たす役割と今後の研究動向を、農芸化学分野の研究者に伝え、この領域の研究の円滑な推進の一助とするとともに、市民の皆様がゲノム編集について興味を持ち理解を深めることを目的とする。

８．次　第：
15：00～15：05　開会の挨拶
吉田 稔（日本農芸化学会会長）

15：05～15：10　日本学術会議 挨拶
熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、農芸化学分科会委員長、日本大学生物資源科学部教授）

15：10～15：40
講演「エピジェネティクス：ゲノムの高度活用戦略」
佐々木 裕之（九州大学生体防御医学研究所教授）
座長：久原 哲（日本学術会議連携会員、農芸化学分科会委員、九州大学大学院農学研究院教授）

15：40～16：10
講演「進化を牽引するゲノムのパワー」
小林 武彦（東京大学定量生命科学研究所教授）
座長：石野 良純（九州大学大学院農学研究院教授）

16：10～16：40
講演「品種改良とゲノム編集」
中村 崇裕（九州大学大学院農学研究院教授）
座長：村中 俊哉（日本学術会議連携会員、農芸化学分科会委員、大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻教授）

16：40～16：55　総括（大会実行委員会）

16：55～17：00　閉会の挨拶
阿部 敬悦（日本農芸化学会副会長、東北大学大学院農学研究科教授）

9．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案２１

公開シンポジウム「２０３０年に向けたこれからの畜産学の方向性と
最先端技術の展開」の開催について

１．主催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会

２．共催：日本畜産学アカデミー・日本畜産学会

３．後援：京都大学

４．日時：令和２年３月２８日（土）９：００～１２：００

５．場所：京都大学農学研究科Ｗ１００講義室

６．分科会等の開催：開催予定あり

７．開催趣旨：

家畜生産はこれまで乳、肉、卵とそれらに含まれる様々な栄養素を人々に供給し、家計や国家レベルで多くの収入を生み出してきた。しかし近年、ヨーロッパ諸国を中心に家畜糞尿由来の窒素やリンによる環境汚染、ウシなどの反芻動物消化管由来のメタン排出がもたらす地球温暖化への影響などの環境問題や人間の食料と家畜への飼料の競合による土地利用の問題などその功罪が議論の的となっている。他方で、アジアやアフリカなどの発展途上国では、経済発展による所得の増加に伴って穀物中心の食事から畜産物の摂取が急速に増加し、家畜生産への期待が高まっている。今後、近い将来にこのような国々では畜産物の需要と消費が増加してゆくことは歴史的に見て明らかである。一方、わが国で畜産物が公に食されるようになったのは明治の文明開化以降で、特に第２次世界大戦後の高度経済成長を経て、畜産物の消費は急激に増加し、それに伴って日本人の体格はよくなり、寿命も延びた。それらのことは必ずしも畜産物の摂取のみが原因とは言えないが、畜産物からの動物性タンパク質の摂取の増加が日本人の栄養の向上に貢献したことは紛れもない事実である。わが国では乳用牛が１３３万頭、肉用牛が２５１万頭、豚が９１９万頭、ブロイラー用および採卵用鶏が３億２千万羽飼育され、畜産の生産額は稲作全体よりも多い３兆１６２６億円で、農業全体の３４％を占めている。このような国内外の状況の中、わが国の畜産業と畜産学はどのような方向に向かうべきであろうか。わが国の畜産学のフロントランナーとして活躍されてきた４名の研究者を招き、それぞれの専門分野における最先端技術をわかりやすく解説していただき、２０３０年に向かっての１０年間に畜産学はどのように発展し、それらの研究が畜産業にどのように貢献するのか話してもらおうと考えて本シンポジウムを企画した。日本学術会議が有する公益性を踏まえ、本公開シンポジウムは広く一般市民をも対象とし

て、シンポジストと参加者が一体となって、新しい畜産学と畜産業の方向性に対する関心と理解を深めることを目的とする。

８．次第：

司会進行　廣岡博之（京都大学農学研究科教授）

９：００　開会の挨拶

柏崎　直巳（日本学術会議連携会員、日本畜産学会理事長、麻布大学獣医学部教授）

９：０５～９：３５

「マンモス復活プロジェクトから考える『応用科学としての動物生殖生物学』の将来展望」

松本　和也（近畿大学生物理工学部教授）

９：３５～１０：０５

「環境調和をみすえる家畜栄養学の展開：温暖化ガスの低減に向けて」

小林　泰男（北海道大学大学院農学研究院教授）

１０：０５～１０：１５　休憩

１０：１５～１０：４５

「家畜育種におけるゲノム情報の活用とその展望」

増田　豊（ジョージア大学畜産学部准教授）

１０：４５～１１：１５

「基盤科学・畜産学に裏打ちされた２０３０年の畜産業の展望」

眞鍋　昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐人間科学部教授・独立行政法人家畜改良センター理事・日本中央競馬会経営委員）

１１：１５～１１：５０

総合討論

座長　入江　正和（独立行政法人家畜改良センター理事長）

１１：５０　閉会の挨拶

矢野　秀雄（日本畜産学アカデミー会長）

９．関係部の承認の有無：　第二部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）

提案２２

公開シンポジウム「食力向上による健康寿命の延伸：
補綴歯科の意義」の開催について

１．主　催：日本学術会議歯学委員会、日本学術会議歯学委員会臨床系歯学分科会

２．共　催：公益社団法人日本補綴歯科学会

３．後　援：未定

４．日　時：令和２年６月２７日（土）１５：００～１７：００

５．場　所：福岡国際会議場（福岡県福岡市）

６．分科会の開催：開催予定なし

７．開催趣旨：

第２４期の歯学委員会は「口腔から先制医療を目指した口腔科学研究の展開」を、臨床系歯学分科会は「新たな臨床指標の確立と医療ネットワークの構築」をテーマに掲げている。その中で、高齢者の要支援、要介護に対する先制医療としての予防、重症化予防として「食（力）」に注目している。

高齢者の健康長寿に結びつける食（力）を考える場合に、歯学領域おいてただ高齢者の咀嚼能力だけを捉えるだけでなく、食を取り巻く環境を含めて包括的に捉えるべきである。さらに、高齢者の問題を高齢者のみに対応していくのではなく、小児、成人、高齢者という各世代通しての口腔の健康、口腔機能の育成・維持・回復と考えていくべきである。学術的には、その考えを支持するエビデンスを集積し、歯学領域から現在進められている地域包括ケアシステムに関係する全職種に訴えていく必要がある。

このシンポジウムでは、朝田委員に、小児から成人に至る口腔健康、口腔機能の育成をどう考えるかを、市川委員に食力をいかに総合的に考えるべきかを話していただく。そのあとに馬場委員に（補綴）歯科治療における食力向上について、窪木委員に（補綴）歯科治療による健康寿命の延伸のエビデンスの集積状況を話していただく。最終的に、食力を回復し健康長寿をもたらす（補綴）歯科の貢献の学術的意義をまとめ、あわせて今後の展望について議論する。

８．次　第：(予定)

15:00　開会挨拶

丹沢　秀樹（日本学術会議第二部会員・歯学委員会委員長、千葉大学大学院教授）

司会（座長）：

丹沢　秀樹（日本学術会議第二部会員・歯学委員会委員長、千葉大学大学院教授）

古谷野潔（日本学術会議連携会員、九州大学大学院教授）

講師：

朝田　芳信（日本学術会議連携会員、鶴見大学教授）

市川　哲雄（日本学術会議第二部会員・臨床系歯学分科会委員長、徳島大学大学院教授）

馬場　一美（日本学術会議連携会員、昭和大学教授）

窪木　拓男（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院教授）

16:30　総合討論　全登壇者

９．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）